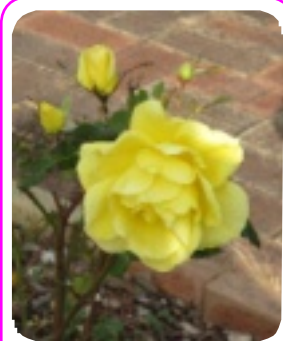


ぎやらりーわ

NO.73

2016年1月号

編集・発行 NPO法人グループわ (小畑 浩昭) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL.078-743-8101 FAX743-3830



●花の村内散歩
バラ (藤田健一撮影)

銭太鼓百人打ち,500人が堪能



シルバーカレッジホールで開かれた銭太鼓百人打ち

第10回楽遊クラブ銭太鼓「百人打ち」が10月31日(土)、神戸市シルバーカレッジホールで開かれました。9グループ、130人が出演、児童、知的障害者、高齢の銭太鼓クラブのメンバーが民謡、演歌・歌謡曲、童謡など26曲を披露。ホールは約500人の観客でぎっしり満員。勇壮な、お腹にひびく演奏を堪能しました。

楽遊クラブ銀雅とKSC楽遊グループによる「河内おとこ節」の歓迎打ちでスタート。各地の銭太鼓グループは「傘踊り」「南京玉すだれ」を演奏、観客の皆さんが手拍子や熱い拍手を送り、楽しい交流会となりました。

(文 楽遊クラブ銀雅代表 重松豊彦
写真 事業担当 四方久幸)



ボランティアの
輪をひろげよう

グループわ、水の科学博物館の運営に参加 2面

73
号の
内容

第6次東北交流報告会開く	3面	部会、区会レポート	7.8.9面
ボランティア最前線 里山和楽会	4.5面	学習支援の集い	10面
生物多様性シンポで報告	5面	カレッジだより	10面
女性会員、ボランティア活動を語る	6.7面	WAからのお知らせ	11面

水の科学博物館 スタッフ始めませんか

〈わ〉が指定管理者に

NPO法人グループわ は、神戸市水道サービス公社・神鋼環境ソリューションズと共同で水の科学博物館の指定管理者になることが決まりました。12月4日の神戸市議会で議決、平成28年4月から企画、運営、管理業務を始めます。これに伴い、〈わ〉は同館での業務担当者(スタッフ)を募集しています。1日あたり庶務1人、受付案内2人、誘導警備2人の計5人です。

水の科学館は、兵庫区楠谷町にあり、1990年(平成2年)、神戸市水道給水開始90周年を記念し「水」をテーマとする博物館としてオープンしました。3Dシアターの映像や水を使った理科実験、水について楽しく学習できる展示物があります。桜の名所で春は花見客がたくさん、訪れます。

関連会社と共同で受注

神戸市水道公社・神鋼

水の科学館はことし春、あらゆる世代が学び、発見し、遊べる施設に生まれ変わります。展示内容を見直し、多様化を図ります。①どんな水があるか、水の可能性は②神戸の水道の歴史、水道の仕組み③水の文化(お茶、風呂、豆腐作り)④災害に強い水道などをわかりやすく説明します。11月から平成29年2月まで休館し、2階部分などをリニューアルします。

業務	業務時間	募集人員
庶務	9時15分～16時45分	約10人
受付案内	9時15分～16時45分	約20人
誘導警備	8時～18時(平日)※	約20人

※土日祝日は8時～17時。月曜日は休館日。誘導警備業務は館が休館に関わらず休みは年末年始のみ。
手当1時間約600円

〈わ〉は約10年前から水の科学館でイベント活動をしてきました。昔あそび、マジック、木工、大道芸、大正琴、絵手紙などです。この3年間は春と夏の2回、出前教室や実演をやっていきます。

募集するスタッフの仕事は①庶務(1人)②受付・案



どっしりと重厚なドイツルネサンス様式の水の科学館



水の科学館で昨年夏、開催したマイオハシ作りの教室

内(2人)③誘導・警備(2人)です。庶務は各管理運営チームと企画チームなど担当間の調整や団体予約を受け付けます。受付・案内は展示物点検、片付け、受付、解説・誘導、緊急時の対応などです。誘導・警備は区域内巡回、駐車場管理、窓口券販売、鍵管理などです。勤務時間、募集人員は表のとおりです。

館長と管理担当副館長は神戸市水道公社、企画担当副館長は神鋼ソリューションズから出ます。〈わ〉本部は責任者として専任の担当者を置きます。この責任者は5月総会で理事に充てる予定。この4人で会議を月に1回開き館の運営管理、企画などを話し合います。

〈わ〉は12月初旬に3年生クラス代表者会議で内容を説明、募集チラシを配布しました。1月5日には、3年生各教室のホームルームに参加、応募を募りました。現役以外の会員の皆さまにも奮って応募していただくようお願いします。

募集は1月29日(金)までとして、人選確定後2月中旬頃から研修を実施します。ローテーション会議を3ヶ月に1回、休館日の月曜日に実施する予定です。

(取材・写真 広報 永野知己)

東北交流5年で6回、お疲れ様

第6次チーム報告会開く

ジョイラックデーの11月17日(火)午前11時15分からシルバーカレッジホールで第6次東北交流報告会が開かれました。NPO法人グループわは平成23年7月から27年7月までに5年間で6回、東北大地震の被災地に支援チームを派遣、交流活動を続けてきました。第6次の活動で一応の区切りをつけることになり、総まとめとして、今回の報告会を開きました。報告会を聞いた参加者は「長いこと、お疲れ様。本当によく続けられました」と感想を話していました。

海野龍英さん(6次隊)の司会で開会。塚汎団長の挨拶に続いて、南形徹さん(写真④)は第1次から第6次の活動を振り返りました。

第1次隊(17人)は平成23年7月18~22日に宮城県南三陸町・石巻市・大崎市・登米市へ。大型ライトバン4台に農機具と段ボール65箱分の衣類・日用品など



支援物資を満載、登米の避難所に届けました。神戸を早朝に出発、日本海側回りで深夜に到着。南三陸町では9人が

田んぼのガレキ運びの手伝い。山間の棚田ですが、多くの住宅が全壊、田んぼはヘドロとガレキの山。3日間で3反ほどを片付けました。残り8人は、大崎市などの幼稚園・小学校・児童館を回り、子供たちと昔遊び・紙芝居・マジック・歌を楽しみました(公演の中身は6次までほぼ変わりません)。最終日の22日、南三陸と石巻の被災地を見学。見渡す限りガレキの山。子供たち70数人が大津波にのまれた石巻の大川小学校では道路わきの祭壇に花やおもちゃが供えられ、多くの人涙ながらに手を合わせています。私達も涙がとまりませんでした。

第2次隊(15人)は平成23年10月15日~19日に女川町・石巻市・東松島市・名取市の仮設住宅・小学校・幼稚園・児童館で計11回の交流活動をしました。振興協会チームとの共演も始まり、6次まで続けました。

第3次隊(17人)は平成24年7月7日から13日まで、女川町・石巻市・名取市などを訪問。仮設住宅4か所、小学校5校、保育所3か所、児童館3か所の計15か所。

第4次隊(8人)は、平成25年7月2日から6日まで石巻市・女川町・名取市・仙台市若林区を訪問。仙台豊齢学園と初めての連携プレーが実現しました。

第5次隊(10人)は、平成26年7月2日~6日の日程(4泊5日)で女川町と名取市の小学校・保育所・児童館・復興住宅を訪問。女川町では、5日、完成したばかりの復興住宅集会所で料理の交歓会を開きました。

第6次隊(9人)は、平成27年7月2日~6日まで仙台市・名取市・女川町の小学校・保育所・復興住宅を訪問。5日は自治会役員20人と双方の震災体験や復興、地域ボランティアについて初めて語り合いました。お互いに「中身が濃かった」と評価していました。

最後に小畑浩昭理事長が「派遣人員は延べ80人のほり、派遣費用も〈わ〉会員やカレッジ学生のみさんの募金を活用させていただきました。ご協力ありがとうございました」と挨拶。このほか、ホールの入り口で第6次隊や震災直後と現在の写真60枚を貼り付けたパネル展も開き、参加者らは熱心に見入っていました。

(写真⑤)

〈文・写真 広報・永野知己〉



園児らの「また来てね」に胸が熱く

岡田洋子さん(国21期)の報告要旨

岡田洋子さんは、初めて東北交流に参加、その経験談を語りました。要旨は以下の通り。

私が第6次交流隊に参加したのは、子ども文化のサークルに所属しており、昔遊びを通して子どもや被災した方々と交流できるかな、と思ったからです。

仙台市東六郷小学校は校舎が倒壊して児童わずか17人。チラシで紙鉄砲を作ったり紙飛行機を飛ばしたりして一緒に楽しみました。

女川町では復興住宅でお楽しみ会やカレーを食べながらの交流会、ディスコン大会。自治会役員との懇話会も初めて実施しました。その際、震災直後の女川を撮影したビデオ



オ、阪神大震災のビデオを上映し体験談を語り合いました。婦人部や老人クラブができて活動を始め、趣味の講座も開設されているそうです。

女川に2か所ある保育所もまわり、子どもたちとブンゴマや紙トンボで遊びました。お礼に園歌や七夕さまをうたってくれ嬉しかったです。帰り際に窓から身を乗り出して「また来てね」と手を振ってくれ、またまた感激しました。

町がよみがえるまでには相当の年月がかかることでしょう。被災地で私たちは何ができるのか。〈再び学んで〉の心を実践しようと奮闘されてきた先輩たちの列に加えていただいたことに感謝しています。

秋の林 見て触れて楽しむ



里山和楽会

神戸市北区のかがやきの森
で開かれた自然観察会

ボランティア最前線

「ドングリが近年にない大豊作なのよ」とガイド役の谷口文子さん。なるほど、里山和楽会が整備に励む神戸市北区の「かがやきの森」の散歩道には実がびっしりと落ちていました。

実のついた枝を折り持ち帰ります。生け花に使うそうです。葉が波打ち、風にふかれてさやさやと音を立てることからソヨゴの名前が付いたとか。木にペットボトルがぶら下げてあります。これは中にスズメバチの好物を入れて閉じ込め、被害を防ぐためです。

11月1日(日)午前10時から同会主催「秋の自然観察会」が開かれました。近くの小倉台の幼児3人を含む住民24人が参加。道満俊徳代表(生13)が「この林には130種の樹木が生えています。じっくりと見て、手で触り、匂いをかいでみてください」と挨拶の後、2班に分かれスタート。谷口さんが散歩道のとっかかりで「これがリュウブ。夏に穂のような花が咲く。ふだん、葉っぱを貯蔵しておき、飢饉になるとご飯に混ぜて食べたとか。江戸時代、年貢として納めたそうです」と説明。ついでルーペ



カマキリの巣を手にする男の子

を取り出し、コガラウツギの花の跡やセンブリを観察。参加者も「えらい倍率が高い。ようわかる」と感心しきり。コナラ、ヒノキ、スギ、アラカシも簡潔に説明します。

10分余り歩くと展望台に到着。帝釈山系や遠く三木の山々が見えます。直下には小倉台の住宅街。この里山は、整備する前は樹木がうっそうと茂り、暗くて見通しがきかなかった。つる草も絡みついてブッシュ状。マツタケが豊かに獲れたアカマツは、大半、枯れていた。今、適切な伐採で光が通り、明るくなっています。樹木や生物の種類も大幅に増えています。

小休止の後、ソヨゴの赤い実を発見。参加の女性が

クロモジは茶会のお菓子に使うつまようじの材料。枝を折って香りをかぐとハーブのようです。アベマキ、サルトリイバラ、ヤマモモなど興味深い話も聞きました。12時前、ゴールに到着。ある女性は「知らないことを一杯、聞いた。秋の山、自然にたっぷりと触れ堪能した。気持ちよく歩けた」と満足そう。道満代表は「例年なら40-50人が参加する。PRが足りなかったか」と少し残念そうでした。

(他のスタッフ: 藤原文江、猿橋太嘉子、仲村千恵子、内富紗智子、岡崎照保さん)

× × × ×

道満代表に事前の10月21日に和楽会の歩みを取材しました。活動場所は、社会福祉法人「かがやき神戸」が管理しているかがやきの森の東地区。神戸電鉄・谷上駅から南へ約1キロ上がった新興住宅地のそば。標高350mから380mで面積は約3ha。

道満代表が、生環13期生のころ、「かがやき神戸」所長に「障害者施設に隣接する林を整備・再生していただけないか。障害者やお年寄り、子どもたちが安心して、自然に親しみながら散策できる交流、憩いの場にしたい」という話があった。趣旨に賛同したクラスメートらで、活動を開始。平成19年4月、十数人で和

楽会を結成、活動に乗り出した。グループ学習でも里山を取り上げ、平成21年にはグループわに加入。会員は山歩きが好き、植物に興味があるという素人ばかり。里山の事は何も知らない。ゼロからの出発だった。

指導を仰いだのは、当時、カレッジの講師だった服部保・兵庫県立大教授。同教授の里山の教えを忠実に実行してきた。それは①里山林の環境調査をした後、植生調査をし、管理作業に入る②輪伐し、樹齢の異なるパッチワーク状の林にする③林床整備は毎回行い、下草や落ち葉を集めるーこと。まず、学習、研修を重ね、日々、中期、年間の活動計画を立てる。活動結果は記録、分析、検証する。

毎週月曜日が活動日で年間40日間ぐらい作業する。里山管理、調査、堆肥づくり、広報など7チームある。8月は暑いので、専門の施設で学習、研修をする。

森は5ゾーンに分けその中を10メートル×10メートルの100㎡という調査枠・作業枠を250区を作った。各区は4人で担当、1日に4班計16人が調査、作業をした。どんな木や草が生えているか種類、本数、樹木の高さなどを調べ、植生調査表を作る。観察木を決め、観察も続けている。どの木を伐採するか、木に印をつける。印をつけた木は、後日、伐採、新たに植樹する。伐採した木は枝を切り落とし、一定の長さに切る。集めた落ち葉などとピオネストに積み、堆肥にする。

活動日の前に計画を作成して会員にメールで配信する。当日、作業前にミーティングをし、約3時間、伐採、植樹、林床整備などの作業。その後は各チームで、きょうは何をしたか発表、記録している。会員相互の情報の共有化に努め、これを毎回繰り返す。遊歩道や階段を作り、貯水槽も設置。5ゾーンの整備は平成25年に完了。その後は、各ゾーンを順番にメンテナンスしている。

このほか「かがやき神戸」主催の地域ふれあいまつり、地元の広陵小学校の環境学習、春、秋の自然観察会、〈わ〉の昆虫採集などに協力している。カレッジの生活環境コースでは授業も実施。NHK、韓国、ドイツのテレビ局の取材も受けており、評判はよい。メンバーは16人。8年間の活動中、多少の出入りがあったものの、和気あいあいと働いているとのことでした。

(取材・写真 広報 永野知己)

生物多様性シンポジウムで 花実の森PJ 報告

10月24日午後、神戸市シルバーカレッジで、神戸市と神戸市シルバーカレッジ主催の平成27年度生物多様性シンポジウム「生きもののつながりと私たちの暮らし」が開催されました。カレッジホールでは基調講演とリレートークが、行われ、基調講演では生物多様性の現状と保全の重要性が説明されました。

リレートークでは、神戸市の取り組み、食・農業・漁業・消費者からみた生物多様性について、地域での取り組みとして、海・川・里山での取り組みについて、8団体(小学生も)から報告がありました。

グループわ 花実の森PJ 菅田忠志代表(生11)が「里山で取り組む保全活動」について報告しました。

最後に「生物多様性保全 市民行動宣言」が紹介され、拍手で採択されました。ふれあいホールではポスターセッションが行われ16の団体のポスターが展示されました。(広報 岡本紘一)



東六郷小の一行が村へ

仙台市立東六郷小の6年生8人と先生ら計11人が12月11日夕、しあわせの村を訪れ福祉振興協会、グループわなどが歓迎セレモニーを開きました。吾郷専務理事、小畑理事長が歓迎スピーチを述べたあと、手芸品やお菓子、文具などのお土産をプレゼントし、子供たちを励ました。鈴木校長からは「当時1年生だった子供たちも6年生になり、大震災のことも少しは分かるようになりました。毎年、東六郷小に来ていただき感謝しています」とお礼の言葉があり、子供たちからも「ありがとう」と染め抜かれた一文字が協会へ贈られました。グループわは7月に同小を訪問。この日の歓迎会にも理事長ら5人が出席しました。東六郷小の子供たちは神戸市教委の招きで毎年神戸を訪れており、ルミナリエを見学したり、地元の小学校と交流会を開いたりしています。今回は10日から2泊3日の予定で神戸の休日を楽しんでいます。(東北プロジェクト・南形徹)



女性会員, ボラ活動を語る



座談会出席者

福祉部会 (一寸奉仕)	増金スミ子(福11)
国際部会 (会計)	芳賀順子(福10)
文化部会1 (KSCマジッククラブ)	南形公子(福13)
文化部会2 (KSC手話ソング同好会)	山下春美(福8)
文化部会2 (SCクラブ大正琴)	前田仁子(福11)
本部 (PJ花実の森)	橋野美子(一般)
環境部会 (タンスの肥やし)	藤本明美(生17) = 誌上参加

グループわ 広報は、十一月二十七日、ベテランの女性ボランティアに集まっていただき、へわへわに入った動機、どんな活動をしているか、活動を始めたきっかけなど、大いに話していただきました。時の首相が「女性が輝く社会」とぶち上げる時代、女性らしい視点からの貴重な意見もあり、ざっくばらんに有意義なお話を聞くことが出来ました。

◆〈わ〉に入られた動機は？ したいことは？

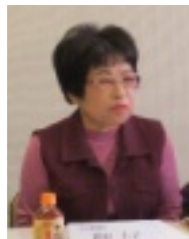


南形 平成9年に酒鬼薔薇事件が須磨区で起き、直感的に今後は、シルバー世代が子供の面倒を見ないといけないと感じた。カレッジ入学直後、「学習支援活動に参加しないか」との要請を受け、カレッジの実情がよく

わからないまま、ごく自然にボランティアを始めた。

橋野 阪神大震災が平成7年に発生した。一期生の学生さんが、大車輪のボランティア活動を展開、その後〈わ〉を結成された。カレッジ事務局員だったが、その素晴らしい情熱に感激、NPO法人になった時点で加入。子どもたちに関わる仕事がしたかった。

前田 小学生のころ、日曜教会で牧師さんから「人さまから頂くより、人さまに与えることが大切」と教わった。60歳を超えて、退職、やっと、チャンスが回ってきた。大正琴クラブを結成して10年。元気な間は社会にご恩返しをしたいと願っている。



山下 カレッジに入学したてのころ、手話歴20年の同じ班の友だちに「一緒にやりませんか」と声を掛けられた。華やかなハイアソンをと思っていたのをやめ、手話を始めた。この友達は2年生の時、ガンで亡くなり、いつの間にか自分が中心的な役割をつとめていた。平成17年、手話ソング同好会を〈わ〉に立ち上げ、代表になった。9人で始めたものが今50人。月に3、4回活動している。今年で代表を辞め、楽になった。活動を間引き、銭太鼓やグラウンドゴルフを楽しんでいる。

芳賀 さる11月15日の神戸マラソンで国際部会の仲間5人と通訳ボランティア、神戸の姉妹都市シアトルからの来訪者の観光案内・交換留学生のホームステイ、国際学会参加者家族への日本伝統文化紹介講座の通訳、〈わ〉総会での司会を4、5年つとめた。〈わ〉以外で



は、女性の地位向上と子供支援をめざす国際奉仕組織フェニックス神戸ソングクラブで19年間活動している。
増金 24歳で結婚、子どもが保育園に入ってから婦人大学に入学、卒業した28歳ころから活動に打ち込み40年。困った人を助けるのは当たり前。休みは月2日しかないけど、元気で働けて幸せだ。

藤本 グループ学習で「古着の行方」を勉強し、卒業後、カレッジ校舎内に古着回収ボックス設置を仲間と検討。カレッジ事務局から「〈わ〉としてなら設置を認める」というお話があり入会を決めた。

◆どんな活動を？、印象に残ることは？

南形 小学校の特別支援を週に1回10年。マジックボラを月に2、3回。近所の友達と2人、幼稚園で読み聞かせ。幼児の目の力が強く、本に引き込まれていることがよくわかり、楽しい。このほか、民生委員。

橋野 地域では、「三木に住んでいるのに、神戸でばかり活動。民生委員をやってよ」とお願いされた。80歳過ぎた方が「頼まれたことを断ったことがない。自分を試されていると思うから」という言葉に共感、引き受けた。



花実の森PJで里山に散策道を作り、子どもたちと自然観察会を開く。木の枝をチップに砕き積んでいたら、いつの間にか、カブトムシがチップの下に卵を産み付け、幼虫200匹が生まれ、驚いた。ボラ活動は日々の生活そのもので、生きがい。

前田 須磨区名谷に大正琴クラブを立ち上げた。5人で発足したが、今10人。老人施設訪問では喜んでいただくのがモットー。歌詞カード1つでも大きな文字で作る。大正・昭和の懐メロと一緒に歌うと日ごろ愛想のない90歳がニコニコされる。デイサービスは毎月7回以上訪問。竹の台小学校では伝統文化教室にも参加

ボラ活動は生きがい／自分が豊かになる

している。

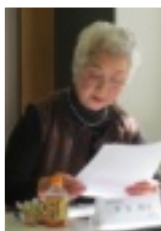
山下 特別養護老人ホームで手話ソングを楽しむ。



長い付き合いなので、顔なじみ。お年寄りから「はやりの歌もやってよ」と注文が出る。交通事故を防ぐため、子どもの見守りもやっている。最初、はにかんでいた男の子が最近傍に自らよってきて

「おはようございます」と挨拶する。とくに小学1年生は本当に可愛らしい。

芳賀 活動を長く続けていると様々な経験と人脈が広がり枝葉がついて自分が豊かになる。ソントクラブで李広宏氏と共に、中国四川大地震で片足を切断した女子高生に日本の義足をプレゼントした。「スカートがはける」と大喜びだった女子高生の段志秀さんが日中友好の懸け橋に成ってくれたら嬉しい。



増金 自宅を開放し週2回ふれあい喫茶を10年。近所のお年寄りら15、6人が来てくださる。週1回大道芸の一寸法師、自宅で月に2回学童保育、民生委員など。ある時、97歳のおばあさんが「南京玉簾私1人でも見せてくれるか」といわれ、小さな自宅を訪ねた。雨が降る中、窓の外で演じた。喜んだおばあさんの顔は一生、忘れられない。



藤本 毎週金曜日、2人1組の当番制で古着回収ボックスの回収管理を行う。第4金曜日はメンバー全員で定例会。打合せや着物リメイクの情報等を交換している。活動開始3年目で9トン以上回収、活動が支持されていると実感している。

◆〈くわ〉本部へ望むことは？

山下 事務所を訪ねると理事の皆さんは壁際に置いたパソコンに向かって、どなたも振り向かない。ちょっと手を止めて「こんにちわ」と声をかけてくれるだけで、うんと話しやすいのに。

橋野 本部はボランティアのコーディネートだけでなく、困ったこと、失敗したことを相談できる、明るく開かれた話しやすい本部になってほしい。

前田 我々は10年、15年と息の長い活動をしているのに、理事任期は2、3年。理事長ら数人はすべてに精通している人が必要。何人かは5、6年続ける必要があるのでは。

南形 組織が縦割りで、しなやかさが無い。オー

ブンな話し合いが欠けているのでは。

橋野・南形 学習支援委員会について組織の在り方、運営の改善が必要ではないか。

全員 カレッジ学生に〈くわ〉のことを知ってもらう授業がある。第一線でボラ活動をやっているベテランの今日出たような体験談を話すと効果があると思う。

芳賀 地域・社会のニーズに沿う活動を。お互いの意見や個性を尊重することが一番大切。

(司会・文まとめ 広報 永野知己 写真 藤田健一)

部会 レポート

ケナフの和紙つくりと炭焼きを体験

グループわの「ケナフの会」主催の「しあわせの村の自然を探そう」が秋晴れの10月31日午前9時30分から正午まで開かれました。子供たちが父兄と一緒に、竹炭焼き、ケナフ紙漉きを楽しみました。炭焼きでは子供たちに材料の竹を炭焼き釜に入れてもらい、炎が出始めると、歓声があがりました。紙漉きでは父兄も子供たちに負けずに、真剣になって、きれいな押し花で、ハガキや、しおりを造っていました。スタッフも天真らんまんとなった秋の1日でした。



(ケナフの会代表 前田浩三・生14)

KSC男声合唱団が台湾で招待演奏

KSC男声合唱団31人は10月22日～26日、台湾NPO「弘道老人福祉基金会」の招きにより台北で演奏会に出演。台北小巨蛋（アリーナ）で「仙角百老匯」（高齢者の芸能交流演奏会）と題して23日にリハーサル、24日に演奏しました。昼夜2回、それぞれ約10,000人の観衆を前に演奏。

蛙の面をつけた振付で「筑波山麓男声合唱団」で歓声があがり、台湾語で「望春風」、現地でも人気の高い「北国の春」を歌い、満場拍手喝采の嵐。また、出演の合間には他の現地出演者との楽しい交歓ができ、日台交流を深めました。

(KSC男声合唱団 吉本 弘・音17)

部会 レポート

7面から続く

親子連れでXmasリースを作る

夢基金PJの里山・花山梅林会

グループわの里山グループと、花山梅林会は、11月22日(火)午前10時から、しあわせの村野外活動センターで小学生と保護者を対象に「Xmasリース教室」を開きました。ゆめ基金プロジェクトの一環で9組が参加。里山グループと梅林会の5人が材料になる飾りのドングリ、マツボックリ、ナンテンの実、リースの土台になるフジ、アケビのツルなどの材料をたくさん用意しました。



親子連れは、ハサミやキリを手に、何とか好みのリースを作ろうと苦心惨憺。里山グループの笹井修司さんは王子公園で犬を散歩させながら、ドングリをどっさり、集めたといひ、花山梅林会の徳原尚世さん(国9)は、葉っぱや実がついたブドウのツル、サザンカの花を持ってきてくれました。

親子連れは「初めての挑戦。苦勞した。でも、何とか完成し、心に残る、楽しい一日になりました」と満足そうでした。

(広報 永野知己)

マジックの祭典華やかに

第13回マジックの祭典(KSCマジッククラブ・マジック同好会主催)が11月7日、たんぼぼの家ホールで開かれ、満席の200人が不思議ワールドに酔いしれました。午後1時、森田明朝代表(国8)の挨拶のあと現役の22期から演技がスタート。

休憩をはさんで27組34人が2時間半にわたって次々と日頃の成果を披露。色鮮やかなハンカチや花束、カード、ロープ、傘などが、飛び出したり、消えたりする妙技に、「あれ、どこへ消えたの?」「わっ、きれい。見事やなあ」と観客からは大きな拍手がおくられていました。マジックの祭典は、現役と卒業生のサークルが演技を競い合っ、レベルの向上をはかろうと毎年開いています。(KSCマジッククラブ・南形公子 福13)

「タンスの肥やし」メンバーが優雅にショー SCハワイアンズも生演奏にのり歌って踊る

神戸市主催のいきいきシニアライフフェアが11月7日午前11時から神戸市中央区のデュオこうべで開かれました。グループわのタンスの肥やし(藤本明美代表・生17)とSCハワイアンズ(石田孝司代表・福16)が

招かれて出演。タンスの肥やしメンバー6人は午後2時15分から30分間、タンスの肥やしの和服をリメイクしたスカート、ワンピース、パジャマ、兵児帯をズボンとベスト等に仕立て直し、それを着て花道を歩き、観客約100人の熱い拍手を受けました。メンバーは、あらかじめウオーキングの指導を受け、



美容学校の学生の手でヘアメイク、化粧をほどこされ、モデルさんのようにきれいで、すごく恰好よかったといひます。SCハワイアンズは、トップバッターで午前11時10分から踊り手3人、バンド6人が参加。バンドは交替でボーカルも務めました。「南国の夜」「真珠貝の歌」などにのり、優雅に、なめらかにダンスを披露、最後は「アロハ・オエ」で観客はやんやの喝采を送っていました。

(広報 永野知己)

区会 レポート

東灘区会

東灘ふれあいフェスタに参加 11月3日

に、東灘区役所、社協共催で行われ、グループわの東灘区会、いきがい部会の東灘ボランティアガイドの会、梅一つ火会の3者で参加。区会の活動、街歩きの案内、区花である梅の花の紹介等パネル掲示をしたところ多くの見学者が訪れました。同時に「東灘非公認検定試験」を行い、区長、市議等170人以上の方が受けました。

(中谷一郎・生15)

北区会

北区ロードレース大会を支援 第12回の

大会が12月20日、しあわせの村運動広場で開催され、わ本部3人と北区会6人が、受付と会場内の清掃活動に参加。小学生から一般まで1404人、22種目の競争が行われ、コースとなった中央緑道は家族、友人たちの黄色い声援が飛び交い、熱気に包まれていました。レースが終わるたびに表彰式が行われ上位に入った選手の名前が呼ばれる度に拍手が沸いていました。一生懸命走っている子どもたちの姿を見て、私たちも若さと元気を貰った一日でした。(木田育義・生16)

城崎温泉へ親睦バスツアー 11月18日

に行き、28人が参加。道の駅あおがき、コウノトリ郷公園。昼食は海の幸の料理を前に会話が弾みました。昼食後は雨の中を各自温泉寺など温泉街の散策、外湯巡り、足湯などを楽しみました。

長田区 西市民病院の花壇の植栽植え付け

植栽ボランティア「緑の会」は12月3日、神戸市立西市民病院の玄関前と6階庭園の花壇にパンジー240株などの植え付けを行いました。植え付けたパンジーは今はほとんど花をつけていませんが、今後美しい花が咲いてくるでしょう。



パンジーは5月頃まで美しい花を楽しめ、外来の患者や入院されている患者の心を癒してくれるのではないかと思います。植栽ボランティアは1年が経過しました。外来の患者から「パンジーがとってもきれいで心が癒されます」との感謝の言葉も頂いています。続けて来て良かったなど感じています。(太田治彦・生17)

秋の親睦会 11月9日、しあわせの村でバードウォッチングとバーベキュー大会を実施。参加者10人は、堀池邦康さん(生17)の名ガイドにより、20種類弱の野鳥を観察したあと、バーベキューに舌鼓。和気あいあいの日でした。

須磨区会 お年寄り紅葉ドライブに付添い

名谷すみれ苑の「秋のもみじドライブ」のお手伝いをしました。11月2日から18日まで、区会員19人が、延べ31回、デイサービスのお年寄りに付添い。19、20日は垂水区会にお願い、ご協力いただきました。11月14日は小雨が降り、肌寒い日。午後1時30分、すみれ苑の小型バスで出発し、30分でしあわせの村に到着。村の外周を一回りし、バスの窓からモミジ、カツラなどが紅く、黄色に染まっている様子を楽しみました。

車いすの3人と何とか自力で歩ける人1人の計4人。私と苑の職員2人が車いすを押しました。バスの乗り降りは職員がリフトを使い、誘導します。例年だとバスを降りて、村内を散策するのですが、雨のため、あきらめました。喫茶店に入って、思い思いに飲み物やケーキを注文。お年寄りと生まれ育った村や幼いころの忘れえぬ思い出などを、1時間余りおしゃべりしました。午後3時すぎには、村を出発、苑に戻りました。

(永野知己・生18)

奥須磨公園でウォークラリー大会

澄んだ秋空の下、第3回ウォークラリー大会が、10月25日午前9時から須磨区の奥須磨公園で開催され、18チーム54人が参加しました。参加チームは4分おきに出発、設定されたコースを断片的な地図を頼りにたどり、楽しみました。

西区会 森林浴ハイキング 10月7日、絶好の行楽日和の中、24人が参加。秀吉の三木城攻めで落城した端谷城址、満福寺、大歳神社を経て太陽と緑の道に入り森林浴をしながら、太山寺へ。昼食後、太山寺に到着し記念写真を撮って解散。解散後、太山寺の見学、なでしこの湯の入浴、レストランで乾杯等自由に過ごしました。

国宝姫路城、国見の森、他 見学バスツアー

11月18日、参加者50人。国見の森では、定員40名のミニモノレールで山上学習館へ。モノレールに乗れなかった人は比地の滝を散策。そうめんの里で昼食。ヤマサ蒲鉾では、蒲鉾・ちくわの試食し多くの人が土産を買いました。姫路城の本丸大天守は凄い人でしたが、西の丸、長局は人が少なくゆっくり見学できました。

垂水区会 神戸マラソン沿道クリーンアップ大作戦

11月7日に、神戸マラソンに先駆けてそのコースの主要ポイントや垂水の玄関口を中心に「神戸マラソン沿道クリーンアップ大作戦」が行われました。舞子駅周辺では「舞子駅周辺美緑花」とKSC「みどりの会」のメンバー合わせて11人が参加しました。



(平野維人・国18 森政勝・生18)

視覚障害者芸能大会支援 10月16日に、垂水勤労市民センターで兵庫県視覚障害者芸能大会が開催され、垂水会の11人が会場管理業務で視覚障害者を支援をしました。障害者の皆さんから話を聞き元気をもらいました。

高野山参拝バスツアー 10月27日に、世界遺産で開創1200年の高野山参拝ツアーを35人が楽しみました。ガイドさんに案内してもらい高野山奥の院を参拝、昼食は持明院で精進料理を楽しみ、午後は総本山金剛峯寺、金堂と根本大塔が特別御開帳されていて、各自自由に参拝しました。

布引ハーブ園・布引の滝ハイキング

11月22日に、14人が参加。布引ハーブ園では、ハーブガイドから説明を聞き、グラスハウス(温室)を巡りました。午後は、風の丘で口笛の世界チャンピオンのコンサートを聞き、最後に、紅葉が綺麗な登山道を布引貯水池、布引の滝などを巡る森林浴ハイキングを楽しみました。

(編集 広報 岡本紘一)

学習支援レポート

特別支援講演を50人が受講！

ジョイラックデイの11月17日に、カレッジの学習室1,2にて、学習支援の集いの特別支援講演会が開催されました。現役生も含めて約50人が受講しました。

堺沢委員長（園15）の挨拶に続いて、神戸市立青陽須磨支援学校の支援部長の岸田博子教諭が、「特別支援教育の今と、障がいのある子供への理解を深める」と題してパワーポイントを使用して講演されました。

発達障がいとその特性、子どもの実態把握と対応の仕方などについて、詳しくわかりやすい説明でした。

同校の特別支援コーディネータの鳥越清敏教諭からも、学校支援ボランティアなどについて、説明を聞きました。



講演後、特別支援する上で困っていることなどについて活発な質問があり、対応策を聞きました。

(写真：永野知己 取材：岡本紘一)

神戸空襲パネル写真展開く

神戸空襲写真展が12月7日から15日まで、シルバーカレッジふれあいホールで開かれました。グループわの戦争体験の語り部グループ、神戸空襲を記録する会、シルバーカレッジなど、5者の共催で開かれました。

神戸空襲は、昭和17年4月から20年8月までに計82

日間・128回、米軍B29爆撃機などが神戸を襲い8800人が犠牲となり、15万戸が焼失しました。戦後70年の今、神戸空襲を振り返り、戦争を考え、語り合い、子や孫に平和の尊さを伝えてゆこうと写真展は開か



れました。パネル45枚の裏表に空襲で焼け野原となった神戸市街地や雨あられと投下されるB29の爆弾、炎に追われ逃げ惑う市民らの写真や戦争語り部の体験談を聞いた小学生の感想文などがびっしりと張られました。パネル展を見た人は「神戸空襲の記憶はないが、話は聞いていた。しかし、これほどの悲劇だったとはー」と話していた。

(写真・取材：永野知己)

カレッジだより



20期グループ学習発表会

27年度のグループ学習発表会は、12月7日の食文化専攻をスタートとして2月24日の音楽文化専攻まで、約2か月間にわたって行われます。

合同発表会は、3月2日（水）です

☆各コースの発表日は次の通りです

- 健康福祉コース（12月10日）
- 国際交流・協力コース（12月14日）
- 生活環境コース（1月29日）
- ※総合芸術コース
- 美術・工芸専攻（2月19日）
- 音楽文化専攻（2月24日）
- 園芸専攻（1月29日）
- 食文化専攻（12月7日）

サポート募金のご報告

(7月1日～12月25日分)

野鳥と自然観察会 3,360円、2015年度音文交歓会 1,600円、13期福祉クラス会 3,008円、橋野美子（一般）5千円=合計12,968円

WAからのお知らせ



全日本特別支援教育研究連盟 全国大会支援に感謝状

10月15日～16日に、第54回全日本特別支援教育研究連盟全国大会 神戸大会が開催されました。

16日の分科会に、グループわ から27人、シルバカレッジ在校生から31人、合計58人が、10ヶ所の分科会会場にて、最寄駅から分科会会場までの道案内や会場での弁当・湯茶の世話などのボランティア活動を展開しました。これに対して、実行委員会より感謝状を頂きました。

法務省一行が村を視察

国際法務総合センター（東京）の建設にあたって、しあわせの村の運営を参考にしようと、法務省大臣官房の一行が10月22日午後、村を訪れました。高嶋智光審議官、矯正局大橋哲課長ら8人で、市民福祉振興協会・吾郷専務理事らの案内で馬事公苑、ホテル、病院、温泉棟など村内を2時間にわたって視察。広大な敷地に点在する各施設や日本庭園には驚いた様子で、村祭りなど市民参加型のイベント運営には特に関心が高いようでした。

カレッジでは藤本事務局長が概要を説明し、グループわの南形監事が活動内容を紹介。「立派な施設ですね」と感想を話しながらクラブ活動中の校内を見て回りました。

法務総合センターは、地域との共生を目指し、民間のノウハウを採り入れて医療刑務所や矯正施設などを集約するもので、29年度にオープン予定です。（南形徹）

●ボラセンから1.5万円 入学式・学園祭で、〈わ〉と共同で実施したサポート募金の一部、1万5千円が〈わ〉に寄託されました。賛同してくださったKSCの皆さまにお礼申し上げます。

●学園祭から1万円 学園祭実行委員会から、「活動費に役立ててほしい」と寄付がありました。大切にに使わせていただきます。

●グループわ 本部のメールアドレス

グループわの本部ではコミュニケーションを改善するために、パソコンを一人一台体制にしました。メールアドレスを以下の通り、担当毎に設定しましたので、ご活用願います。

●74号（4月号）の発行は2016年4月中旬です。

グループわ 本部のメールアドレス

広報・ホームページ wa_gallery@wa-net.jp

わ本部の役員を8年

つづき

長期にわ本部で勤務できたことは偏に本部役職員の方々のご協力があったことで深く感謝しております。

本部の仕事では広報部に始まり企画担当と、会員の皆様のボランティア活動の裏方としての業務に専念しておりました。

したがってしあわせの村内でのイベント以外には現場活動はしていない悔いが残りました。

区会活動も運営委員として参加しているが、体力的に衰えており活動実績はありません。各区内でボランティアを単独でコツコツと努力されている人もいます。しかし、部会活動と違い横のつながりが全くないので区会活動に連携はありません。これは、個人情報保護の間違った解釈で会員名簿が公表されない為、同じ地区内に何方がKSCの卒業生か判らないからだと思います。区会は会員相互の親睦を図り、楽しい老年生活を送り、その延長線にボランティア活動があるので良いと考えます。横の連絡を取り合い、小さなグループから輪を広げて行きましょう。

（長谷川洸士・前監事 国11）

編集後記



★女性座談会は予定の2時間を1時間超えても、まだ話が止まらない。ベテランの女性ボランティアさん、中身がいっぱい詰まっていて、いくらでもしゃべれるよう。中には1か月に休みは2日間だけの人も。ボラ活動が生活そのものになり、自分が豊かになれるとおっしゃったのには、ただただ脱帽。（永野知己）

★区会の情報を送付頂き感謝しています。ぎゅらりーわやホームページに区会情報を多く掲載できており大変嬉しく思っています。今後も活動内容や活動記録を更に多く掲載したいと思いますので、ご協力をお願いします。（岡本紘一）

★きゅらりーわの発行に向けた編集作業も3回目となり、全体の流れが少し理解できるようになりました。またジョイラックデー（11/17）での東北交流報告会のお手伝いを通じて、新たな経験をされる機会にも恵まれ、今後の活動に役立てて活きたいと思っています。（藤田健一）

代表・総務・学習支援 group_wa@wa-net.jp

事業・パソコン教室：wa_support@wa-net.jp



〈クリスマスリースづくり〉
 グループわの里山グループと花山梅林会の皆さんで「Xmasリース教室」を小学生と保護者9組が参加して開催しました。
 何とか好みのリースを作ろうと苦心惨憺されていました。
 …11月22日(日)しあわせの村



〈奥須磨公園ウォークラリー〉
 澄んだ秋空の下、須磨区主催の第3回ウォークラリーが開催され、18チーム54名が参加しました。
 …10月25日(日)

トピックス



〈グラウンドゴルフ大会〉
 晴天の下、参加者は11組33名。開会式・ラジオ体操の後、赤8コース・青8コースに分かれ、世話役(北区会長)の土井さんの掛け声でスタート!
 …10月17日(土)しあわせの村



〈神戸マラソンを応援する須磨太鼓〉
 第5回神戸マラソンは「ありがとう」を合言葉に市民2万人が神戸市役所前を一齐にスタート。須磨一ノ谷プラザがクォーターマラソンのゴール地点となりました。
 …11月15日(日)須磨一ノ谷プラザ前



〈森林浴ウォーク〉
 グループわ主催・森の仲間の皆さんの協力で20名弱の参加で、阪急宝塚～中山観音～夫婦岩公園～奥の院～やすらぎ広場～清荒神～阪急宝塚のコースを歩きました。
 …10月9日(月)中山寺奥の院